

症例検討 ヒルドイドの使い分け

H28.5 金町店

- ・ **有効成分**: ヘパリン類似物質
→ ヘパリン: 体内でつくられるムコ多糖類の仲間、保湿成分の一種
- ・ **効能・効果**: 皮脂欠乏症、進行性指掌角皮症、凍瘡、肥厚性癬痕・ケロイドの治療と予防
血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患(注射後の硬結並びに疼痛)、血栓性静脈炎(痔核を含む)、外傷(打撲、捻挫、挫傷)後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎、筋性斜頸(乳児期)
→ 保湿作用、抗炎症作用、血行促進作用

	ヒルドイドソフト軟膏 0.3%	ヒルドイドクリーム 0.3%	ヒルドイドローション 0.3%
添加物	グリセリン(保湿剤、変性剤) 白色ワセリン、サラシミツロウ スクワラン(保湿剤) 軽質流動パラフィン(エモリント剤) セレシン(エモリント剤) グリセリン脂肪酸エステル (合成界面活性剤、乳化剤) エデト酸ナトリウム水和物 (キレート剤、殺菌防腐剤) パラオキシ安息香酸メチル (防腐剤) パラオキシ安息香酸プロピル (防腐剤) ジブチルヒドロキシルエン (酸化防止剤)	グリセリン(保湿剤、変性剤) 白色ワセリン ステアリン酸(油剤、脂肪酸) 水酸化カリウム (pH 調整剤、アルカリ剤) ラノリンアルコール セトステアリルアルコール (油剤、乳化安定剤) 乳化セトステアリルアルコール (油剤、乳化安定剤) ミリスチルアルコール (油剤、乳化安定剤) チモール(香料、殺菌防腐剤) パラオキシ安息香酸メチル (防腐剤) パラオキシ安息香酸プロピル (防腐剤) イソプロパノール (消泡剤、粘度低下剤、溶剤)	グリセリン(保湿剤、変性剤) 白色ワセリン スクワラン(保湿剤) セタノール 還元ラノリン セトマクロゴール 1000 (合成界面活性剤、乳化剤) モノステアリン酸グリセリン (合成界面活性剤、乳化剤) パラオキシ安息香酸メチル (防腐剤) パラオキシ安息香酸プロピル (防腐剤) カルボキシビニルポリマー (合成ポリマー) ジイソプロパノールアミン

* ヒルドイドソフト軟膏

- ・ ソフト軟膏のためクリームと軟膏の中間の特性をもつ。
- ・ 流動パラフィン、セレシン、スクワラン、サラシミツロウ→エリモント剤(4種)= 皮膚水分の蒸発を防ぐ
→ 被膜感がでるため、乾燥が強い場合に推奨、べたつきが残りやすい
- ・ グリセリン脂肪酸エステル: 皮膚浸透性高める
- ・ 幼児向け(生後1年~6年:生涯で一番皮脂分泌量が少ない)

対象疾患名	改善率(%) [改善以上]
皮脂欠乏症	95.0 [57/60]
進行性指掌角皮症	71.2 [42/59]

* ヒルドイドクリーム

- ・ 元々血行促進目的として開発。保湿効果にはやや劣り、皮膚科での処方頻度は低い。血栓性静脈炎にも使用される。
- ・ 原材料に羊脂由来のものが含まれ、やや独特なおいがある。
- ・ 他剤形より副作用がしやすい。使用の0.93%に赤み・かぶれ・かゆみのSE報告あり。
→ 添加物として含まれるラノリンアルコールがアレルギーを起こしやすい(1.5%)

対象疾患名	有効率(%) [有効以上]
皮脂欠乏症	91.2 [259/284]
進行性指掌角皮症	71.6 [68/95]
凍瘡	90.8 [129/142]
肥厚性瘢痕・ケロイド	75.5 [369/489]
血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患	100 [8/8]
血栓性静脈炎	78.0 [71/91]
外傷後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎	75.5 [508/673]
筋性斜頸	88.3 [362/410]

* ヒルドイドローション

- ・ べたつきが少なく、夏場や背中等の広範囲への使用に向いている。
- ・ まれに気温低下による結晶化の報告があるため、常温にて保存。使用時は結晶化を防ぐため振らない。

対象疾患名	改善率(%) [改善以上]
皮脂欠乏症	98.1 [53/54]
進行性指掌角皮症	85.2 [23/27]
肥厚性瘢痕・ケロイド	66.7 [10/15]
外傷(捻挫、挫傷)	100 [18/18]

* ヘパリン類似物質油性クリーム 0.3%「日医工」

- ・ 先発より値段が安価 → 先発： 23.7 円/g 、後発： 9.0 円/g
- ・ サラシミツロウの配合特許が切れていないため、密着性が低く塗りあがりさがさっぱりしている。

	ヒルドイドソフト軟膏 0.3%	ヘパリン類似物質油性クリーム 0.3%
添加物	グリセリン 白色ワセリン、サラシミツロウ スクワラン 軽質流動パラフィン セレシン グリセリン脂肪酸エステル エデト酸ナトリウム水和物 パラオキシ安息香酸メチル パラオキシ安息香酸プロピル ジブチルヒドロキシトルエン	濃グリセリン 白色ワセリン スクワラン 軽質流動パラフィン セレシン グリセリン脂肪酸エステル ジブチルヒドロキシトルエン(酸化防止剤) エデト酸ナトリウム水和物 パラオキシ安息香酸メチル パラオキシ安息香酸プロピル

* ヒルドイドの使用

- ・ 顔への使用： 美容液として使用されることもあるが、炎症肌(酒さ様皮膚炎)では赤みを増す可能性あり(血管拡張効果)、ステロイドによる皮膚萎縮がさらに赤みを目立たせるため使用には注意が必要。
→まずは皮膚のバリア機能を整える必要がある。
- ・ リバスタッチ： 13.5 mgの使用で赤みがやすい→4.mg開始 1 週間前からヒルソフ使用することで軽減。
- ・ 発汗促進作用： 発汗反応を助けることで肌理を整える。汗腺の汗貯留による症状にヒルドイド Cr.使用で改善。(ステロイド:発汗を抑える) → 発汗が速やかに行われる=発疹おちつく
- ・ アトピー性皮膚炎で真っ赤な部分や粉が大量に吹いている部分になっている部分に塗ると悪化することが多い。
→この部分は「炎症」のため、ステロイドの使用が適している。

参考資料 : ヒルドイドソフト軟膏 IF